

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 58

「道德のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

七月六日（金）朝、

笠松駅前には水色ののぼり「MSリーダーズ」をもった岐阜工業高校の生徒とオレンジ色ののぼり「心をつなぐボランティア」をもった笠松中学校の

町内九ヶ所で行われた。中学生が各小学校の昇降口や通学路で小学生や地域の方とあいさつを交わし、小学生から大人まで地域で人とのつながりを広め深めようと取り組んだ。

駅前で、中学生と高校生がいつしよに「あいさつ運動」を行うのは、今回で二回目になるが、小学生が参加するのは初めてである。笠松駅を利用される通勤通学の人々に「おはようございます」と小学生の黄色い声や中高生の太い声

生徒が集まった。さらに、ランドセルを背負った登校途中の笠松小学校の児童も加わり、六十名ほどになった。「笠松町あいさつ運動」の最終日、小中高生による心をつなぐあいさつの取り組みが始まった。

かけられる。こうした声に、笑顔で応えていただけの方も前回より増え

◇ ◇ ◇

この運動は一昨年、笠松中学校生徒会の提案



により始まった。心温まる町づくりをめざす道德のまち笠松推進会議も他の組織に呼びかけ、共に取り組んできた。三年目の今年は、七月四日から二日間、

てきた。かわす声と笑顔で心のふれ合いも感じられるようになってきた。

◇ ◇ ◇

あ

いさつは、人とのつながりを育むき

っかけとなる。この笠松で学び生活する小学生・中学生・高校生が、人とのつながりの大切さに気づき、自らあいさつ運動に取り組み、町の文化にしよう活動を続けている。

この地域で生活する我々大人もこの思いや活動を受け止め、あいさつを通じた地域での人とのつながりをいっそう広め深めようではありませんか。



名鉄笠松駅前であいさつする
小・中・高校生